



## 優良賞

### 今だから伝えたい

遠野市立遠野中学校 3年  
柏崎 悠司 (かしわざき ゆうじ)

小学校4年生の3月のある朝、普段はにこやかで優しい先生が、だらけていた私たちを見て、突如怒鳴り始めた。あんなに優しい先生がなぜあそこまで怒鳴ったのか、不思議でしかたがなかった。まるで、あの瞬間を予言したかのよう。

「何年か後には、三陸で大きな地震が起こると言われているのに、しっかりと人の話を聞けないと大変なことになるのですよ。」

そして、その日の最後の授業を始めようとしたそのとき、それは起こってしまった。そう、忘れもしない、3月11日、2時46分……。

私は、あの日のことを今までも鮮明に覚えています。地震が起きた直後、あまりの恐ろしさで不安で私の学校の児童はみな泣いていました。幸いにも近くに高台があった為、ほとんどの児童は助かりましたが、私は、保育園からの大事な幼なじみの一人を失うことになりました。辛くて寂しい思いだけが残りました。このような思いを誰もが体験せざるを得ない状況でした。

しかし、この後目にしたことや体験を通して、私は震災から多くのことを学んだのです。

何も食べておらず、空腹だった私に、祖父母の知り合いがお菓子を分けて下さったこと。震災の翌日にも関わらずたくさんの自衛隊員が、避難所に駆けつけていたこと。この出来事を報道するために、アメリカから記者の方が、取材に来ていたこと。近くの都道府県だけでなく、九州など遠くからもボランティアの方々が集まって来たこと。さらには今現在でも、ボランティアの方々が被災地のことを忘れずに活動を続けて下さっていること。

感謝したいことは数えきれません。

震災後、私はすぐに遠野に引っ越してきました。

学校や環境の変化、そして人間関係などへの不安を知らぬ間に抱えていたように思います。

中学1年の時、私たち遠野に住む被災者と北海道の紋別のボランティアの方々との2日間の交流会が行われました。そこで齋藤さんというボランティアと出会いました。齋藤さんと私は、野球という共通の話題で話が弾みました。そして、キャッチボールをしました。齋藤さんの温かさに触れる中で、不安がだんだんと消えていくのがわかりました。たった2日間ではありましたが、私は、この齋藤さんとの出会いを境に、震災がもたらすものは、悪いことばかりではない、と思うようになりました。この出会いを私は一生忘れません。

私は、被災者にも関わらず、比較的震災前と変わらずに生活できています。それは、ボランティアの方々を始めとしたたくさんの方々の支えがあったからだと思います。

震災が起こるのは、避けられませんが、震災がもたらすものは、悪いことばかりではありません。震災があったからこそ人々の絆が深まり、日本が一つになれたと私は思います。齋藤さんとは今も交流が続いています。

現在世界では、約3秒に1人の割合で人の命がなくなっています。私たちがこうしているこの瞬間も、食事も満足に取れず、学校にも通えない幼い子どももいます。

今だから伝えたい。感謝の心を忘れないください。生きていることを一人一人が感謝してください。私はこのことを震災の体験とともに、これからも伝え続けていきます。

#### ○ この作品を通して、これからどんな人生を作り上げて行きたいですか？

世界中には病気や飢えなどで苦しんでいる人や私達が当たり前と思っている生活ができてない人々があります。ですので、私が伝えたいと思っている感謝の心と、生きていくことへの、感謝を忘れずにたくましく生きていきます。また、私の震災の体験とともに、感謝の心と生きていくことへの感謝をたくさんの方に伝え続けていきたいです。できるだけたくさんの方に伝えられるような生き方をしたいです。